

21世紀、三重県の多様な森林づくり

森林は、水源のかん養や二酸化炭素を吸収することによる地球温暖化の防止などの働きをもっています。また、鳥や獣などの野生の生き物が生きる場であるとともに、私たちにとってもやすらぎが得られる大切な財産です。ところが、林業の経営が難しく担い手が不足していることから、放置される森林が増加しています。このような手入れの行き届かない森林では、森林の持つさまざまな働きが弱くなり、私たちの生活への影響も心配されています。

「森林環境創造事業」を進めています。

このため、三重県では、森林を「環境林」と「生産林」にわけて、その働きにあった森林の管理を行うこととしました。「環境林」では、森林の持ち主から提供された森林を私たちの生活を守る財産ととらえ、三重県と市町村が協働して間伐などの手入れを20年間にわたって行います。

森林環境創造事業

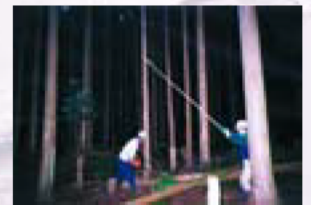
森林は、植えられて、何度も手入れを入れて、大きくなります
伐採され、木材として利用されます



植林 (木を植えます)



生産林



間伐 (木を抜き伐ります)



枝打ち (節の無い木をつくります)



しかし、木材価格の低下により森林の手入れ不足など、山は荒れています

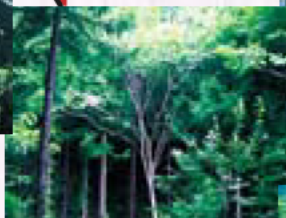


伐採 (木を伐り運び出します)

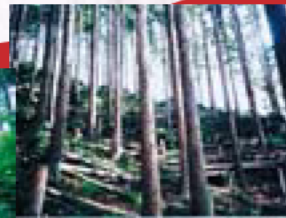


森林環境創造事業により、生産を目的としない多様な森林づくりを目指します

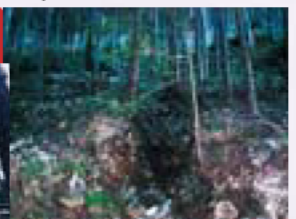
環境林



広葉樹や下草が生えてきます



大胆に木を抜いて森の中を明るくしたり、木を植えて多様な森をつくります



真っ暗になった森林は、下草も無く、土壌浸食が目立ちます